

香川県教育委員会事務局
保 健 体 育 課 長 殿

学 校 名 高松市立屋島東小学校
学校長名 山 本 麻 有 里

令和 2 年度 オリンピック・パラリンピック教育実施報告書

I 事業実施前の課題

- ・ 相手の立場に立って考え、どんな相手にも自分から進んで行動したり、関わったりしていく児童が少ない。
- ・ オリンピックに興味があると答えた児童が 27%、パラリンピックに興味があると答えた児童が 19%と低い。また、オリンピック・パラリンピックに関する学びは、去年から 5 年生の総合的な学習の時間で取り組み始めたため、全校的にもあまり興味・関心が高まっているとは言えない。

II 具体的な取組み

1 活動名 (事前学習) : オリンピック・パラリンピックについて調べたことを新聞にまとめよう

(1) 日 時 : 令和 2 年 9 月 1 8 日 (金) 1 0 : 1 0 ~ 1 1 : 5 0

(2) 対象者 : 第 5 学年 2 7 名

(3) 活動概要及び工夫点 (総合的な学習の時間で実施)

- ・ 購入したり、市・県の図書館から借りてきたりして、オリンピック・パラリンピックに関する本を一人 1 冊以上用意し、自分の興味のある内容について調べられるようにした。
- ・ 調べ学習をする前に、リオパラリンピックのダイジェスト映像や NHK アニメ「ブレイカーズ」を見たりして、パラリンピックへのイメージや関心を高めてから行った。
- ・ まとめた新聞は、オリパラレポート・新聞コンテストに提出することを伝え、見通しをもってとりくめるようにした。

(4) 活動の様子



【調べ学習をしているところ】



【完成した新聞】

2 活動名（中心学習）：パラリンピックスポーツの体験をしよう

(1) 日 時：令和2年10月19日（月）～11月25日（水）

(2) 対象者：第5学年27名、2年生18名（ボッチャのみ）

(3) 活動概要及び工夫点（総合的な学習の時間で実施）

- ・シッティングバレーボール
- ・ゴールボール体験
- ・ボッチャ体験：障害者スポーツ人権教室
- ・車いすバスケットボール体験：一般社団法人 IINE（いいね）

(4) 活動の様子



【シッティングバレーボール・ボッチャ・車いすバスケットボール体験をしているところ】

3 活動名（中心学習）：パラリンピアンと他校児童と、オンライン交流会をしよう

(1) 日 時：令和2年11月9日・16日（月）10:30～11:15

(2) 対象者：第5学年27名

(3) 活動概要及び工夫点（総合的な学習の時間で実施）

- ・ゴールボールの体験後に、ゴールボールのパラリンピアンとの交流をすることで、児童が感じたプレーの課題を解決し、次の体験に生かせるようにした。
- ・他校の児童の質問内容から、自分たちが今まで意識してこなかった観点や視点について新たな学びが広がるようにした。

(4) 活動の様子



【オンラインで交流しているところ】

4 活動名（事後学習）：ボッチャとゴールボールの体験会を開催しよう

(1) 日 時：令和2年12月7日（月）～18（金）13:00～13:15

(2) 対象者：全校生 111名、老人会6名

(3) 活動概要及び工夫点（昼休みの時間で実施）

- ・ 活動が密にならないように、一人一人が体験を楽しむ時間をできるだけ確保するために、昼休みに学年ごとに招待して実施した。
- ・ 児童がそれぞれのスポーツのおもしろさを紹介する劇を創作し、録画したものを体験会がある昼休み前の給食の時間に視聴してもらい、体験への意欲を高めた。
- ・ いつもお世話になっている地域の老人会の方々とボッチャ体験をすることで、パラリンピックスポーツが、誰でも楽しめるスポーツになっていることを再確認できるようにした。

(4) 活動の様子



【ボッチャの体験会をしているところ】



【ゴールボールの体験会をしているところ】

Ⅲ 成果と課題

- オリンピックに興味があると答えた児童が27%→88%に、パラリンピックに興味があると答えた児童が19%→85%と大幅に上昇した。その他の項目も全て実施前より上昇しており、年間を通して継続的に実施してきた成果があった。
- 体験する時間を多く確保したことで、今まで関心がなかった児童もスポーツの楽しさにふれることができ、来年のパラリンピックでは体験していない種目を見るのが楽しみと答えている児童が多かった。パラリンピックスポーツの良さである、「どんな立場の人とも平等に競い合える」ことが特に印象に残った様子であった。
- ゴールボールの選手との交流会を行えたことで、プロアスリートの生の声から学びを深めることができた。今回はオンラインで実施できたので、コロナ禍でも安全に、そして移動時間や費用などを抑え手軽に実施することができた。また、他校の児童と関わる経験ができたことも貴重だった。
- 障害者体験などを行わず、I'm POSSIBLE やパラリンピックスポーツ体験を中心に実施してきたので、障害者に対する同情的な見方や考え方は生まれず、障害者にも自分たちにはない長所があり、お互いを認め合いながら、一人一人を尊重しながら関わっていこうという共生社会の基礎となる態度が育った。
- △ 5年生は総合的な学習の時間のテーマである「福祉」に関連させて、年間を通してオリ・パラ教育の実践を行ってきたが、他学年での年間計画への位置づけが不十分である。
- △ 「ZOOM」交流会では、操作や使い方に不慣れな部分もあり、教師側がICTを上手に活用していく技能を学んでいかなければならないと感じた。
- △ 来年度以降は、学校外の組織に協力を仰ぐ場合、予算の都合で今年度と同様の取り組みができるとは限らない。そのため、できるだけ地域の人材等を活用できるよう、取り組み方を変えていかなければならない。